
恋と恋愛

peach-pit

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋と恋愛

【コード】

N8587E

【作者名】

peach-pit

【あらすじ】

普通の高校生・長野美久が電車で助けてくれた人に恋をした。しかし、幼馴染の瀬那のことも気になって・・・？

恋1

【恋】は片思い。

【恋愛】は両思い。

私はそう思ってる。

私は今……【恋】をしている。

「行ってきまーす」

私は外に出て、ドアを閉めた。

「美久みく！弁当」

私の姉・美紀みきが私のお弁当を持って私の元へ駆け寄ってくる。

「はい」

姉が私に弁当を差し出す。

「あ……忘れてた。ありがとう」

私は差し出された弁当を手にとり、カバンに入れる。

「まったく……毎日毎日忘れて……。昨日は新^{しん}。今日は私に
迷惑かけて……。いいかげんにしてよね」

姉がため息をしながらブツブツと言う。

「はい。行ってきまーす」

私は適当に返事をし、学校へ向かった。

駅につき、電車が来るのを待つ。

「おはよ」

私に挨拶をしてきたのは幼馴染の瀬那^{せな}だ。

「あ。瀬那^{せな}。おはよ」

「今日も髪型かわってんなあ」

私の髪の毛を指さしながら言う。

「いーじゃん！男子には分かんないのよ」

「ああ。確かにわかんねえ」

そこ……。納得するところ？！

私はちょっと髪の毛をいじる。

電車が来た。

ドアが開き、私と瀬那せなは電車に乗り込む。

毎朝ながら電車の中は満員だ。

「今日も混んでんな」

「うん……」

「気をつけるよ」

「え？……あ。うん」

瀬那せながそんなこと言うなんて……めずらしい。

今日雨降るのかなあ。

「んんっ……!!」

電車がカーブしたせいで人が私によって来る。

きつつい……。

誰か助け……。

「大丈夫か？」

私の目の前に現れた人。

私と同じ学校の男子制服だ。

「は……はい」

彼のおかげで少し楽になった。

「いつも混んでんだな。大変だ」

「はい……」

私……なんかドキドキしてる。

なんなの……？

この気持ち……。

プシューッ。

ドアが開いた。

あ……！私の降りる駅！！

私はなんとか駅に出れた。

「美久。大丈夫だったか？」

瀬那もなんとか出れたようだ。

「う……うん」

「へ……。。美^み久^くっていうんだ」

……この声は……。。

私はゆっくりと振りかえった。

そこには私を助けてくれた彼がいた。

恋2

「誰だ？」

瀬那せなが私の前に立つ。

「俺はあらいたく新井拓人。今日から
×学園の生徒」

「引越し？」

「うん」

どつりで見たことないはずだ……。

私は納得。

瀬那せなは……。

……キレてる。

顔がいかついよ……。

「瀬那せな。何キレてんの？」

瀬那せなが振り向く。

「は？キレてなーよ」

「キレてんじゃない……」

私はおもわずため息。

「美久」

私は新井君に呼ばれ、新井君を見る。

「ん？何？」

「アド教えて？」

「は？お前調子乗んなよ」

瀬那が新井君の胸ぐらを掴む。

瀬那はケンカしがちだからヤバいかも！！

私は立ち上がった。

「やーめて！」

私は二人の間に入り、瀬那の手を離れた。

「新井君！」

「ん？」

「……いいよー！アド」

新井君の表情が明るくなる。

「美久……本気か？」

「うん」

瀬那は一瞬寂しそうな顔をし、俯いた。

……瀬那？

「美久携帯かして」

「え？あ……うん！」

私は新井君に携帯を渡した。

新井君は自分の携帯を取り出し、私の携帯と赤外線通信している。

「美久……」

俯いていた瀬那が顔をあげた。

「俺先行くわ」

「え?!ちよっ……」

瀬那は私の言葉を聞かずに行ってしまった。

瀬那……さつきから様子変……。

具合悪いのかな……?

「美久終わったよ」

新井君は私に携帯を差し出す。

「うん」

私は携帯を受け取りかばんにしまう。

「あれ？アイツどこ行ったの？」

「ん？瀬那のこと？なんか先行っちゃった……」

「心配？」

「え？どして？」

「ん……。心配そうな顔してるから」

「そりゃあ小さい頃からの長い付き合いだから……」

そう。

瀬那とは幼稚園の頃からずっと一緒だった。

なのに初めて瀬那が先に行った。

どうしちゃったんだろ……。

「美久行こう」

「あ。うん」

私達はならんで歩き始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8587e/>

恋と恋愛

2011年10月4日15時24分発行